

令和2年度 事業報告書

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

目 次
(令和2年度事業報告書)

はじめに	1
1. 学術・科学技術の振興	1
1.1 倉田奨励金.....	1
1.2 日立財団科学技術セミナー	5
1.3 日立スカラシップ事業	6
(1) 博士課程留学支援プログラム	
(2) リサーチサポートプログラム	
1.4 日立財団アジアイノベーションアワード	6
1.5 日立感染症関連研究支援基金.....	8
2. 人づくり	9
2.1 理工系人財育成支援事業	9
(1) 日立みらいイノベータープログラム(小学生向け).....	10
(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け).....	10
2.2 大好き いばらき作文コンクール.....	11
2.3 日立市少年少女スポーツ育成大会事業.....	11
3. 多文化共生社会の構築	11
3.1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム	11

はじめに

令和 2 年度は、当初から新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全ての事業において今まで経験をしたことがない困難な状況の中での遂行を余儀なくされた。しかしながら、当財団では、Web会議システムなど新たなツールを整備し、積極的に活用するとともに、各事業においてウイルス対策、遠隔実施など事業関係者からさまざまなご協力を賜りながら趣向を凝らし、ほぼ計画通りに、一部は今まで以上の成果を得ながら事業を遂行した。

事業面でのトピックスとして、まず、「日立財団アジアイノベーションアワード」の第 1 回目となる募集、選考、採択を実施したことが挙げられる。財団では、アジアの人財育成ならびに国際交流事業として、昭和 59 年度から 37 年間にわたって実施してきた日立スカラシップ事業を令和 2 年度にて終了した。そして、近年のアジアの大きな発展を受けて事業をリニューアルし「日立財団アジアイノベーションアワード」として結実させた。コロナ禍が収束しない中、残念ながら表彰式を行うことは叶わなかったがWebを活用し採択された研究内容を動画にて広く公開した。今後も類を見ない海外事業として内容の充実を一層図るとともに、アジアの大学、研究機関への広報活動に力を入れ、アジアの更なる経済発展に微力ながら貢献していきたい。

加えて、新型コロナウイルス感染症のパンデミックへの貢献として、株式会社日立製作所および、同社役員・従業員、グループ会社役員からの寄付によって、研究助成事業である「日立感染症関連研究支援基金」を新設した。当財団として、今までにない助成規模の、グローバルな研究支援事業として令和 3 年度に募集、選考、採択を行う計画である。

平成 27 年 4 月の日立財団の発足以来、時代の要請に応じて、旧 5 財団時代の事業の改廃と、新設など事業改革を一貫して実施してきた。主要事業は整いつつあり、今後とも持続可能な社会の構築や国民生活の向上、さらには国際社会へのさらなる貢献を目指して、各事業成果の高度化を図っていきたい。

1. 学術・科学技術の振興

1.1 倉田奨励金

本事業は令和元年度までに、1,429 件の研究テーマに総額約 24 億円を助成し、国内の研究活動の支援を行ってきた。また、旧 5 財団統合を機に行った見直しで、助成対象を社会課題解決に資する研究とし、その後、自然科学研究に加え人文・社会科学研究部門にも助成し、先駆的な助成事業として認知されてきた。

令和 2 年度の助成金の交付の内容は下記の通りである。

(1) 助成対象者

- ① 日本国内の研究機関(博士後期課程を有する研究科、同研究科に係る学部、または文部科学省科学研究費補助金「科研費」を申請することができる法人)に所属する研究者。ただし、国籍は問わない。大学院生の応募可。
- ② 自然科学・工学研究部門:募集年度 4 月 1 日現在の年齢が 45 歳以下であること。

人文・社会科学研究部門:年齢制限無し。

(2)助成部門

① 自然科学・工学研究部門

国際的な視野で社会課題の解決に資する、独創的、先駆的な研究。分野は以下の3つとし、自然科学・工学研究の観点による文理融合研究も対象とする。

I. エネルギー・環境 II. 都市・交通 III. 健康・医療

② 人文・社会科学研究部門

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を人文・社会科学の視点(社会、文化、文学、歴史、哲学、倫理、法律、経済等)から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。

(3)助成金額:()は研究期間

① 自然科学・工学研究部門

(1年)100万円程度/1件

(2年)300万円程度/1件

② 人文・社会科学研究部門

(1年)80万円~100万円程度/1件

(4)募集方法

募集は公募とし、案内を当財団ホームページに掲載し募集した。

募集期間は令和2年7月1日~9月15日とした。

(5)助成金の贈呈

大学:32校、工業高等専門学校:1校、研究機構:13機関から計316件の応募があり、選考委員会にて慎重かつ厳正に審査を行い、自然科学・工学研究部門37件(エネルギー・環境:12件、都市・交通:6件、健康・医療:19件)、人文・社会科学研究部門11件の計48件に対し、合計5,491万円を交付することを決定した。

なお、令和3年3月に開催を予定していた贈呈式は、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み中止とし、当財団ホームページにて代表受賞者のご挨拶を掲載した。

令和2年度採択研究テーマ一覧(48件)

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	決定金額 (円)
自然科学・工学研究部門/エネルギー・環境 12件					
1430	スピンの局在化に立脚した有機ダブレット発光体の創製	吾郷 友宏	茨城大学	准教授	1,000,000
1431	ポリチオフェンによる可視光照射下でのカーボンフリーグリーン水素製造法の確立	岡 弘樹	早稲田大学	博士課程 4年	989,000

1432	SiC デバイス信頼性確保に向けた SiC エピタキシャル層キャリア寿命 測定	加藤 正史	名古屋工業大 学	准教授	980,000
1433	敵を味方に：植物ウイルスを利用 し、環境に優しい持続的なエネルギー 生産	木下奈都子	筑波大学	助教	1,000,000
1434	分子状酸素が可能にする効率的かつ 環境調和的な機能性物質構築法の開 発	熊田佳菜子	東北大学	助教	1,000,000
1435	配位子還元体を活性種とする二酸化 炭素還元触媒システムの開発	小出 太郎	九州大学	助教	3,000,000
1436	環状ポリレンの開発と応用	中野 遼	名古屋大学大 学院	助教	1,000,000
1437	グローバルサプライチェーンにおけ る汚染物質排出構造の解明	土中 哲秀	中央大学	助教	960,000
1438	鉄の吸収と体内輸送能力を強化した アルカリ性の不良土壌でも良く育つ 樹木ポプラの作出とバイオマス増産	増田 寛志	秋田県立大学	助教	1,000,000
1439	深共晶溶液を用いた熱化学電池の開 発	山田 鉄兵	東京大学	教授	1,000,000
1440	Evaluating the Effectiveness of Community Forestry Projects Using Multi-Sensor Geospatial Data to Enhance Forest Resilience: Lessons Learned from Cambodia	Ram Avtar	北海道大学	助教	970,000
1441	ロックイン探針増強非定常ラマン法 の確立と2次元熱伝導マッピング	李 秦宜	九州大学	助教	1,000,000
自然科学・工学研究部門／都市・交通 6件					
1442	水域生態系への安全性を考慮した下 水中の抗菌剤分解除去法の開発	石川 奈緒	岩手大学	准教授	1,000,000
1443	高度経済成長期におけるビルの意匠 的特質に関する研究—名古屋都市圏 を事例として—	謡口 志保	名古屋市立大 学大学院	博士後期 課程	900,000
1444	自動運転社会を見据えた歩行者から 見る安心な自動車挙動に関する研究	海野 遥香	岡山大学大学 院	博士後期 課程学生	900,000
1445	夜間光データを用いた物流発生集中 量推定モデルの構築とその応用	川崎 智也	東京大学	講師	1,000,000
1446	モバイル型ビッグデータの活用に基づ く都心部の歩道空間における歩行 者の回遊行動の変遷と特徴に関する 研究	蕭 閔偉	大阪市立大学	准教授	2,100,000
1447	超狭隘極限空間からの環境サンプル 低侵襲回収・保護を実現する球殻飛 行体の開発	多田隈建二郎	東北大学	准教授	2,100,000
自然科学・工学研究部門／健康・医療 19件					

1448	長期記憶維持における細胞小器官の局在変化と分子基盤の解明	上田(石原)奈津実	名古屋大学	講師	1,000,000
1449	短受検時間・低被曝線量な光子計数型X線CT用新構造シリコンX線センサーの創製	有吉 哲也	九州工業大学	助教	995,000
1450	精巣・腎臓の臓器間間質細胞移植？精巣は慢性腎臓病を救えるか？	内田 あや	東京大学	大学院生	1,000,000
1451	KRAS 遺伝子変異を有する大腸がん個別化医療に向けた抗体医薬開発	大石 智一	微生物化学研究会 微生物化学研究所	主任研究員	1,000,000
1452	ナノ粒子界面の精密設計に基づいたDNA ナノシステムによる感染症のその場診断技術の開発	大石 基	筑波大学	准教授	1,000,000
1453	がん代謝不均一性「メタボリックヘテロジェネイティ」を克服するがん治療法の開発	大澤 毅	東京大学	特任准教授	1,000,000
1454	質量分析イメージングを用いた自己免疫性疾患の病態解明	河野 通仁	北海道大学	助教	1,000,000
1455	治療抵抗性うつ病に対する新規治療薬創出	近藤 誠	大阪大学大学院	准教授	1,000,000
1456	腎臓病の個別化医療実現に向けた尿中落下細胞を用いた非侵襲的検査法の確立	鈴木 教郎	東北大学	准教授	1,000,000
1457	新規膵がん遺伝子型モデル動物に立脚した膵がん個別化治療法の開発	園下 将大	北海道大学	教授	1,000,000
1458	ウイルスの院内感染予防に向けた遠隔バイタル計測センサシートの開発	竹井 邦晴	大阪府立大学	教授	2,000,000
1459	糖タンパク質を標的とした膵がん早期診断技術の開発	舘野 浩章	産業技術総合研究所	研究グループ長	1,000,000
1460	膜透過ペプチド固定化ヒアルロン酸を用いた非侵襲的成長ホルモン投与による成長ホルモン分泌不全症治療の可能性評価	伴野 拓巳	摂南大学	特任助教	1,000,000
1461	新規の生体イメージングモデルを駆使した血栓器質化機構の解明	原 哲也	神戸薬科大学	准教授	3,000,000
1462	急性骨髄性白血病に対する新規創薬標的の探索	檜井 栄一	岐阜薬科大学	教授	1,000,000
1463	概日リズム関連疾患の治療に向けた時計タンパク質CRYの機能制御化合物の研究	廣田 毅	名古屋大学	特任准教授	2,000,000
1464	肺循環補助を目指した拍動心筋組織付き人工血管グラフト開発	松浦 勝久	東京女子医科大学	准教授	1,000,000
1465	肝特異的フェロトキシシス制御機構の解明とこれを利用した新規治療法の開発	山田 直也	自治医科大学	博士研究員	1,000,000

1466	シングルセル解析とリポドーム解析を用いた、急性腎障害が慢性腎臓病へ移行する機序の解明	山本 毅士	大阪大学	医員	1,000,000
人文・社会科学研究部門 11 件					
1467	信頼される AI (trusted AI) に関する信認関係の継続的な構築における法的課題の研究	奥乃 真弓	尚美学園大学	教授	1,000,000
1468	科学技術の発展・普及に伴う人々の心理的变化の検討	小塩 真司	早稲田大学	教授	1,000,000
1469	イノベーション・エコシステムを担う最先端研究基盤施設における新しい研究コラボレーションの検討	小野田 敬	東京工業大学	特別研究員	1,000,000
1470	農薬使用の社会的最適性と生産者・消費者の行動変容	桐山 大輝	東京農業大学 大学院	博士後期 課程	970,000
1471	20 世紀における中国の地方隆盛と革命勢力——電信事業を中心に	白鳥 翔子	お茶の水女子 大学	博士後期 課程 1 年	750,000
1472	再生医療の臨床試験デザインにおける科学性と倫理性の再考	高嶋 佳代	京都大学 iPS 細胞研究所	特定研究員	800,000
1473	演劇を用いた科学技術コミュニケーション手法の開発および参加者の先端科学技術の受容態度の変容に関する調査	種村 剛	北海道大学	特任講師	600,000
1474	ニューノーマル時代の人事管理：テレワークおよび兼副業が公正感に与える影響	西村 孝史	東京都立大学 大学院	准教授	1,000,000
1475	Technonationalism in the Semiconductor Global Value Chain in Northeast Asia: Case studies of South Korea Japan Taiwan and China	PARKSeoheeAshley	東北大学	博士課程 学生	900,000
1476	密接密集を避けた新たな文化体験手法の探究：仮想空間とインタープリテーションの融合による authentic experience の提供に向けて	山田菜緒子	金沢大学	講師	1,000,000
1477	幕末維新期における馬車輸送の導入の社会的影響—事業の担い手、経営の実態、再組織化される社会基盤の複合的研究—	山根 伸洋	総合研究大学 院大学	客員研究員	1,000,000
					54,914,000

1. 2 日立財団科学技術セミナー

令和 2 年度は、第 16 回日立財団科学技術セミナーとして、東京大学大学院工学系研究科 教授、理化学研究所 香取量子計測研究室 主任研究員 香取秀俊氏を講師に招き、「光格子時計」をテーマに実施した。令和 8 年頃をめどに、時間の単位である「秒」の定義を現行のマイクロ波から光に基づく定義に変更することが検討されている。

第 16 回 日立財団科学技術セミナー

- ・題目：「光格子時計～時空のゆがみを見る時計」
- ・日時：令和 2 年 10 月 31 日(土) 13:30～15:00
- ・場所：オンライン開催(Zoomウエビナー)
- ・参加者：290 名

令和 2 年 11 月、開催報告を当財団ホームページに掲載した。

1. 3 日立スカラシップ事業

(1) 博士課程留学支援プログラム

平成 29 年度の招聘者 4 名を最終招聘とし、令和 2 年度は 4 名に対し、奨学給付金・学費・研修研究費の支給等の支援を行った。本事業は令和 2 年度を以て終了した。

(2) リサーチサポートプログラム

科学技術の振興を通じた社会課題解決に資する、3 分野(「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療」)において、基礎的・応用的研究を行う東南アジアの研究者(大学教員)を支援する。令和 2 年度は 6 名を受入れた。本事業は令和 2 年度を以て終了した。

1. 4 日立財団アジアイノベーションアワード

近年のアジア諸国の経済発展、科学技術の研究水準の向上を踏まえ、大学の人財育成を中心とした日本への招聘型の支援を改め、これまで 30 年余の学術交流、ネットワークも生かし、アジア地域の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究及び研究開発の成果に対するアワードを新設した。

令和 2 年度第 1 回目の表彰内容は下記の通り。

(1) 表彰対象

持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループとする。

SDGsから毎年度二つのゴールといくつかのターゲットを選定し、これらの達成に貢献する研究および研究開発の成果を募集する。令和 2 年度はアセアン各国のSDGs達成状況を鑑み、ゴール 2「飢餓をゼロに」と、ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」を選定した。

(2) 対象国、対象とする大学・研究機関

募集内容に合わせて、毎年度アセアン各国の中から、対象国、対象大学およ

び研究機関を選定し、応募者を推薦いただく。応募者は、対象大学または研究機関に所属し自国で研究を行う研究者、教員、学生とする。

令和2年度はゴール2と3に課題が多く残り、国の研究資金などが少ない、中低所得国6か国(インドネシア、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ラオス、ミャンマー)を選定し、下記18大学・研究機関を対象とした。

カンボジア	カンボジア工科大学 カンボジア国立衛生研究所 王立農業大学 カンボジア農業研究開発所
インドネシア	バンドン工科大学 ボゴール農業大学 インドネシア科学院
ラオス	ラオス国立大学 ラオス保健科学大学
ミャンマー	マンダレー大学 ヤンゴン大学 イエジン農業大学
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校 フィリピン大学ロスバニオス校 フィリピン大学マニラ校
ベトナム	カントー大学 ハノイ工科大学 ベトナム科学技術アカデミー

(3) 表彰内容

- ・ 最優秀賞 副賞 賞金 300万円/件
- ・ 優秀賞 副賞 賞金 100万円/件
- ・ 奨励賞 副賞 賞金 50万円/件

(4) 募集方法

事前に確認した対象大学・研究機関の窓口となる部署の担当者に対し、募集要項・申請書等を電子メールで送付し、窓口部署からの電子申請のみ受け付けた。募集期間は令和2年4月1日～6月30日とした。

(6) 表彰選定結果

合計30件の応募があり、選考委員会にて慎重かつ厳正に審査を行い、最優秀賞2件、優秀賞2件、奨励賞8件を選定し、理事会の承認を得て表彰対象を決定した。

なお、東京にて表彰式を計画していたが新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み、当財団ホームページにて研究内容の紹介を動画にて実施した。

令和2年度表彰案件一覧

研究テーマ	代表研究者	所属大学・研究機関	SDGs Target
最優秀賞			
ベトナム農作物の低温加工による高付加価値化	Dr. Tan Minh Nguyen	ベトナム、ハノイ工科大学	2 2.3
インドネシア・シタルム流域汚染の浄化・環境対策	Dr. Ajeng Arum Sari	インドネシア科学院	3 3.9
優秀賞			
心血管疾患検出装置の開発	Dr. Tati Latifah Mengko	インドネシア、バンドン工科大学	3 3.8
廃スラッジによる発電用バイオガスおよび有機肥料の生産	Dr. Do Van Manh	ベトナム科学技術アカデミー	3 3.9
奨励賞			
インドネシア薬用植物からの感染症治療薬の開発	Dr. Muhammad Hanafi	インドネシア科学院	3 3.3
ハイブリッドゼロ排出-エビの再循環養殖システムの開発	Dr. Gede Suantika	インドネシア、バンドン工科大学	2 2.4
バティック産業排水浄化のための火山性土壌吸着剤開発	Dr. Zaenal Abidin	インドネシア、ボゴール農科大学	3 3.9
排水浄化のためのカボック繊維吸着剤の開発	Dr. Mary Donnabelle Balela	フィリピン大学ディリマン校	3 3.9
安全で安価な生物農薬肥料 兼病虫害予防液の開発	Dr. Kim Eang Tho	カンボジア、王立農業大学	2 2.3
マラリア撲滅のためのジヒトアルテミン-ヒペラキソとプリマキソ投与研究	Dr. Mayfong Mayxay	ラオス、保健科学大学	3 3.3
汽水地下水における容量性脱イオン現象による脱塩技術適用	Dr. Seinnlei Aye	ミャンマー、ヤンゴン大学	3 3.9
ミャンマーにおける水生生物学発展のための研究と人材育成	Dr. Kay Lwin Tun	ミャンマー、ヤンゴン大学	2 2.4

1.5 日立感染症関連研究支援基金

社会経済活動が複雑に連結する国際社会において、新型コロナウイルスのパンデミックによって世界各国は甚大な被害を受け、政治経済、法制度、科学技術、国際関係などさまざまな分野において課題や脆弱性が顕在化した。そのような課題をデータやエビデンスをもとに学術的に調査、分析、考察し、その知見や研究成果を広く国際的に共有するために新設した。

事業概要は下記の通りである。

1) 助成対象

臨床研究や生物医学的研究でなく、新型コロナウイルス禍が市民生活、政治・経済、法制度、科学技術、地域社会、国際関係などに及ぼした影響についての人文社会科学、政策科学、社会医学的側面からの調査分析や国際比較調査分析などとするが、必ずしも新型コロナウイルス感染症に限定するものではない。また、研究対象国は日本に限定する必要はない。

【例】

- ・医療分野のレギュラトリーサイエンスへのデータ利活用
- ・途上国での中長期的な社会影響と国際支援
- ・科学的助言と政治的・行政的意思決定と社会的受容・受忍
- ・政府・メディア・科学コミュニティによる国民へのコミュニケーションと行動変容
- ・感染拡大防止策と経済政策の両立
- ・ライフスタイルの変容可能性と都市デザインの未来像

2) 助成金額

総額 1億5,000万円

- ・大型研究：5,000万円以下/件とする。
扱う課題領域が複数あり、複数の専門性が求められる複合的テーマで、扱う地域が複数の大陸に広がりをもつ大規模な研究。
- ・中型研究：3,000万円未満/件とする。
大型研究に満たない規模(課題領域や求められる専門性が限定的で、扱う地域、国が複数)の研究。

3) 主要応募条件

- ・複数の研究者による共同研究提案であること。
- ・研究代表者は日本に所在する大学または研究機関に所属すること。
- ・研究チームに必ず海外の大学または研究機関に所属している共同研究者がいること。

また、令和3年4月1日からの募集開始にむけ、募集要項を作成し、選考方法を取りまとめ、電子申請システムを構築すると共に、日本経済新聞、ホームページ、SNS、国内の大学、研究機関、学会などへのチラシ配布などによる告知を行った。

2. 人づくり

2.1 理工系人財育成支援事業

近年、「科学離れ」「理科離れ」が叫ばれる中、ものづくりやイノベーションの基盤が揺らぐことが危惧され、日本の次世代を担う理工系人財の戦略的育成が課題となっている。そうした背景を受け、平成28年度から、当財団の中核領域である「人

づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人財育成支援事業」を立ち上げ、以下の活動を行っている。

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」(小学生向け)

「イノベーション創出」ができる次世代の理工系人財を育てることを目的に、日立グループの社員を企業講師として派遣し、プロジェクト型の探求学習プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を実施している。

令和2年度は、日立市立成沢小学校(茨城県)、かすみがうら市立下稲吉小学校(茨城県)、熊谷市立大幡小学校(埼玉県)、戸田市立喜沢小学校(埼玉県)の4校向けに実施した。

また、令和2年度は、小学校にてプロジェクト型探求学習が導入される新学習指導要領の全面実施の年であるため、本事業の紹介も兼ねて、新学習指導要領、PBL(プロジェクト型学習)、STEAM教育を演目とし、未来をイノベートする人財育成に関する教育フォーラムを下記内容にて実施した。

- ・題目: 変わる教育と日本の未来 ～ 未来をイノベートする人財育成を考える ～
 - ・日時: 令和3年2月14日(日) 13:30～16:30
 - ・場所: オンライン開催(Zoom ウェビナー)
 - ・講演者: 文部科学省 教育課程企画室 板倉寛 室長
戸田市教育委員会 戸ヶ崎勤 教育長
steAm Inc 中島さち子 代表取締役
 - ・参加者: 300名
- 令和3年3月、開催報告を当財団ホームページに掲載した。

(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け)

女子中・高生の理工系進路へのモチベーション喚起を目的として、さまざまな職業の第一線で活躍する、理工系出身の女性キャリアの方々に登場いただき、啓発活動を実施することによって、理工系女子育成、人財の多様性の実現とそれによるイノベーションの促進に貢献している。

令和2年度は下記2回の対談を実施し、当財団のホームページ内特別サイト「わたしのあした」に講演録、動画を掲載した。

パイオニアトークVol.5 梶山祐実氏(横浜市都市整備局都市デザイン室長)
未来都市計画、新しいまちづくりにおける女性の活躍分野を紹介。(公開:令和2年7月)

パイオニアトークVol.6 荒井 由美子氏(竹中工務店 東京本店 技術部)
都市計画を実際に設計・施工する建設会社における女性の活躍分野を紹介。(公開:令和3年3月)

2.2 大好き いばらき作文コンクール

茨城県のチャレンジいばらき県民運動と共催で、茨城県の小学校、中学校を対象とした作文コンクールを実施していたが、令和2年度は、当財団の事業改革の一環としてチャレンジいばらき県民運動と協議を進め、本作文コンクールへの参画を終了した。

2.3 日立市少年少女スポーツ育成大会事業

スポーツを通して少年少女の健全な心身の育成と、友情、連帯感を培い、犯罪や非行のない明るい社会を作ることを目的として、昭和53年度から日立市体育協会、日立市スポーツ少年団との共催で本事業を実施してきたが、当財団の事業改革の一環にて、日立市体育協会との協議の上、今後の事業運営を日立市体育協会に委ねることとし、10年分の事業費相当額の寄付を実施した。本大会は今後日立市体育協会主催で継続する予定である。

なお、令和2年度事業は新型コロナウイルス感染症拡大により中止とした。

3. 多文化共生社会の構築

3.1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム

性別、国籍、年齢、障がいの有無、性的思考など属性の差異を超え、多様な立場や価値観を認め合って、各々が生き生きと、一体となって生活する社会を「多文化共生社会」と定義し、一般市民に向けて意識改革を促す啓発事業を実施している。令和2年度は「外国につながる高校生の教育・就労」をテーマとして下記内容にてシンポジウムを実施した。

(シンポジウムは講演、座談会、パネルディスカッションの3部構成とした。)

・題目：「外国につながる高校生たちの「活躍する力」を拓く

～学びと就労の実態が問いかける支援のあり方～

・日時： 令和2年12月20日(日)13:00～16:00

・場所： オンライン開催(Zoomウェビナー)

・基調講演 北山浩士氏(文部科学省 国際教育課長)

・特別講演 竹沢泰子氏(京都大学教授 日本学術会議分科会委員長)

・財界人座談会

出席者：江田麻季子氏(世界経済フォーラム 日本代表)

栗原美津枝氏(株式会社価値総合研究所代表取締役会長)

洪澤健氏(シブサワ・アンド・カンパニー株式会社

代表取締役CEO)

司会者：石塚達郎(公益財団法人 日立財団 理事長)

・パネルディスカッション

パネリスト：小林美陽氏(文部科学省 総合教育政策局国際教育課
教育専門官)

高橋清樹氏 多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)
事務局長

角田仁氏(都立一橋高校三部制主任教諭)

毛受敏浩氏 公益財団法人日本国際交流センター 執行理事
モデレーター: 結城 恵氏 群馬大学 教育・学生支援機構
大学教育センター教授

・参加者: 589名 後日オンデマンド視聴者 350名

令和3年3月、講演録を当財団ホームページに掲載した。

以上